



学校ホームページQRコード



# 練馬小学校 学校だより

令和7年3月10日

3月臨時号

練馬区立練馬小学校  
校長 鈴木 英明

## 令和6年度 教育活動アンケート結果について

さて、昨年、実施いたしました教育活動アンケートの集計結果が下記のとおりまとまりましたので、お知らせします。保護者の皆様には、アンケートにご協力いただいたこと、感謝いたします。（データ回収率は87%でした）。誠にありがとうございました。アンケート結果等に基づき、学校関係者評価を実施し、次年度に向けた方針等を作成いたしましたので、ここにお知らせします。今後とも練馬小学校の教育活動へのご理解とご協力をお願いします。

【下記の一覧表の数字について】

児童・保護者・教職員…①そう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない ⑤分からないのうち、①及び②の肯定的な評価の割合

【回答数】 児童429名 保護者378名 教員20名

項目	短期経営目標	具体的方策	教員・児童・保護者アンケート内容	評価	○成果的意見 ●課題的意见 ■学校評議員からの意見 ☆改善策	
学力の定着・向上	学習指導の充実による授業規律、学習習慣、基礎的・基本的な内容の定着	①学習規律の徹底	(教員)「相手意識・目的意識をもった話し方・聞き方」の指導や取組を、意図的・計画的に行った。	82.5%	○話し方、聞き方名人の掲示を有効活用できた。 ○「です。ます。」などの場に応じた話し方の指導を日常的に行った。 ○学習発表会などで意図的・計画的に話し方・聞き方の指導を行った。 ●指導を徹底できていないことがあった。 ●継続的な指導ができていなかった。 ☆意図的に子供たちが話す場を増やしていく。 ☆聞く力を伸ばすために、子供たちに聞く観点をもたせ、振り返りを行う。 ☆ですます調の丁寧な言葉遣いや話し方・聞き方の指導を意図的・計画的に行う。	
			(児童)「学習の場に合った話し方、聞き方」ができています。	86.4%		
			(保護者)お子さんは「学習の場にあった話し方、聞き方」ができています。	79.2%		
		②学習習慣の定着	(教員)家庭学習の内容、方法等について具体的に指導し、児童が何をどのようにすればよいのかを明確にして、家庭学習の定着に努めている。	81.3%		○計算、漢字、音読の宿題を毎日、継続して出すことができた。 ●提出された宿題等についてフィードバックができていないことがある。 ●児童が学年×10分の時間を確保するまでに至っていない。 ☆提出された宿題等については、確実に提出者にフィードバックする。 ☆家庭でも繰り返し学習を主体的に進められる課題を提供したり、個に応じて内容を選択できたりという工夫を進めていく。
			(児童)家庭学習のめやすの時間が守られている。(1年:10分,2年:20分,3年:30分,4年:40分,5年:50分,6年:60分)	68.3%		
			(保護者)宿題等の支援により、家庭学習のめやすの時間が守られている。	67.8%		
	③個別最適な学びの提供	(教員)授業中やそれ以外の時間に、TBDなどを活用してそれぞれの児童の課題に応じた指導を積極的に行った。	73.7%	○夏休み補充教室や放課後の地域未来塾等の個別指導を企画・実施できた。 ●個別最適な学びの提供としてのタブレットの活用が少ない。 ●全体の中で児童の実態に合わせて指導していくことに困難さがある。 ●学力差を感じる保護者や反復練習が追い付いていないと感じる保護者もいる。 ☆国語、算数等で、東京ベーシックドリルを行う時間を確保する。 ☆児童の実態を把握し、その課題に合わせて東京ベーシックドリルを活用する。		
		(児童)学校で勉強して、分かったり、できるようになったりしている。(少人数指導、個別学習を含む)	89.5%			
		(保護者)学校は、分かる授業をめざし、工夫した授業展開や指導をしたり、少人数指導やT.T学習、個別学習等で、子供たちの課題に合わせた指導をしたりしている。	71.2%			
	思考力・判断力・表現力、自ら学ぶ意欲や主体的な学び方、情報活用能力の育成	④「聞いて・助けて・任せて・見守る」学習支援	(教員)「聞いて・助けて・任せて・見守る」学習支援に、全教科で意識的に取り組んだ。	77.6%	○「聞いて・助けて・任せて・見守る」ことを意識して取り組んだ。 ●学習支援ができていない教員とできていない教員で差があった。 ●実験や調理実習、探求学習に取り組む時間を増やせるようなカリキュラムを検討して欲しいという保護者の意見がある。 ■話すこと、聞くことを苦手とする人は一定数存在するので、学校で話す機会を設定していくことは大切である。話し方の優劣ではなく、人前で話せたことや人前で話そうとした意欲を褒めて成長を促して欲しい。 ☆全教員が「聞いて・助けて・任せて・見守る」学習支援ができるよう研修の場を設ける。 ☆学校公開では、児童の発表会を公開するだけでなく、普段の学習の様子が分かる授業を公開するようにする。 ☆一対一の対話、グループ内発表、グループワーク、ディスカッション等、自分の意見を伝え、相手の意見を聞く活動を授業に積極的に取り入れ、話す・聞く機会を増やす。発表後には良かった点や改善点を具体的に伝え、自信につなげていく。	
			(児童)自分で考えたことをすすんで発表したり、話し合ったりすることができた。	72.3%		
			(保護者)子供たちが考えて判断し、課題を解決している教育活動が進められている。	75.2%		
思考力・判断力・表現力、自ら学ぶ意欲や主体的な学び方、情報活用能力の育成	⑤ICTの積極的活用による情報活用能力の育成	(教員)ICT機器を授業や学校生活の中で毎日、児童が利活用できるよう工夫している。	61.8%	○電子黒板を活用したり、教科によってはタブレットを活用したりできた。 ●授業以外ではタブレットを活用することが難しかった。 ●タブレットの利用頻度が低い。 ☆連絡帳はクラスルームに配信し、児童が家庭でもタブレットを使えるようにする。 ☆授業以外にも活用ができるよう、自主学習等でのタブレット活用を促す。 ☆漢字のネット教材等を活用し、毎日1回はタブレットを使うようにする。 ☆授業、学校生活の充実、家庭学習等、あらゆる面でICTを活用する機会を増やし、情報活用能力を育成していく。		
		(児童)タブレットを学校生活の中で毎日、利活用している。	65.2%			
読書活動の充実	⑥読書による言語活動の充実	(教員)児童の発達段階に応じた読書指導(ブックウォークの活用、読み聞かせ、ビブリオバトルなど)を計画的に行った。	78.1%	○校内研究で読書指導を続けてきたことで読書が好きな児童が増えるという成果がでた。その成果は家庭にも伝わっている。 ●読書活動の実践として、知らない活動も多い。実勢例等で見識を深め、上手に活用したい。 ☆読書活動の手法等を国語だけでなく、他教科でも取り入れていく。 ☆ブックウォークで読破数を増やしていく楽しみだけでなく、一言感想も増やせるようにする。今後も読書指導を続けていく。		
		(児童)1年間で本を(低50・中30・高20冊)以上読んだ。	71.6%			
		(保護者)学校は読書指導を通して、読書の習慣づくりに努めている。	90.0%			
豊かな心の育成	人権教育、道徳教育の推進	(教員)友達のおさを見付けたり協力したりできる活動を取り入れたことにより、自分や相手のよさを認められる児童が増えた。	82.5%	○友達のよいところを探し、認め合う活動を取り入れる等の各学級の取組で友達のよいところを見つける子が増えた。 ○児童を認める声かけを続けてきた。 ●自分のイメージしたものを言葉に変えて伝えられず、死ねや消えろといった人を傷つける言葉やネットミームを使う言葉の環境を払拭できていない。 ☆児童の気持ちに寄り添いながら、気持ちを言葉に変える必要性等を指導をしていく。		
		(児童)友達の良いところを見付けたり協力したりできた。	87.6%			
		(保護者)学校で互いに思いやり、尊重しあう豊かな人間関係を育む教育活動が行われている。	79.7%			
豊かな心の育成	いじめ防止	(教員)年3回いじめや人権に関する特設授業、アンケート・面談・チェックリストによる行動観察等、いじめ防止・早期発見の取組を実施した。	87.5%	○教員が日頃の関わりで気付けなかったことがアンケートを通して気付くことができています。 ●アンケートに書かれた内容を聞き取る時間を十分に取れていない。また、聞き取るタイミングも難しい。 ☆アンケートの聞き取り強化週間等を設定し、教員へ周知・徹底していく。 ☆放課後に聞き取ることも想定する。低学年で放課後に聞き取る場合は、保護者へ事前に連絡をする。(シグフィー・連絡帳など) ■いじめの芽を小さいうちに摘んでいこうとしているのは、評価できる対応である。相手がいじめられたと思えば、いじめになるので、自分がいじめの立場に立っていないか振り返るよう保護者を含めて注意喚起していく必要がある。 ☆いじめが疑われる場合等、児童から内容を聞く時間を確実に確保し、いじめを受けていると感じる児童の気持ちや安全を優先しつつ、双方の気持ちに寄り添いながら指導を進める。		
		(児童)学校が楽しいと思う。	87.0%			
		(保護者)学校はお子さんにとって落ち着いた楽しい学校である。	86.5%			

項目	短期経営目標	具体的方策	教員・児童・保護者アンケート内容	指標	○成果的意見 ●課題的意見 ■学校評議員からの意見 ☆改善策	
豊かな心の育成	生活指導・教育相談活動・特別支援教育の充実	⑨規範意識、集団適応力の向上	(教員) 3つの「あ」を身に付けられるような指導や取組を、計画的に行った。	81.3%	○指導を重ねることで、近所への迷惑行為がなくなった。 ●新しく赴任した教員も含め、練馬小の約束の共通理解が十分に図れていない。 ☆柔軟な対応も含め、練馬小の約束について、どう取り組ませるか、どこまで取り組ませるか、学期始めに全体で確認する。 ■あいさつを率先してするのは、恥ずかしいという子がいると思う。いかに、率先してあいさつができる人を増やせるかに取り組んでほしい。 ■あいさつ等も含めて、悪い行いに対しては、改善できなくとも成果を求めないで、いけないことだと繰り返し話していくことが必要だと考える。 ☆高学年が低学年の模範となり、あいさつ、集合、後片付けの率先をしたり、教えたりできるような機会を設け、成功体験を与えていく。 ☆悪い行いに対しては、その場で具体的に指摘し、なぜいけないのか、なにが行けないことなのかを冷静に繰り返し説明していくよう学校全体での共通理解を図る。	
			(児童) 3つの「あ」(あいさつ、集まり、後片付け)ができています。	85.4%		
			(保護者) 学校は集団生活を守るうえでの規範意識が高まるよう指導している。	83.4%		
		⑩教育相談体制の充実	(教員) 校内委員会の開催や地域、外部機関、スクールカウンセラー、心のふれあい相談員等の活用・連携を進めた。	73.5%		○心のふれあい相談員やスクールカウンセラーを適度に活用することができていた。(3・5年生の全員面接など) ●スクールカウンセラーに相談するシステムが周知不足であった。特に若手の先生から相談しにくいという声があった。 ●もっと相談できる場が欲しいという保護者の意見が複数ある。 ☆担任が積極的にカウンセラーに関わっていただける体制づくりを進める。 ☆スクールカウンセラーの予定表を含め、相談室だよりを学期ごとに発行し、保護者へ周知を図る。
			(児童) 困ったことは、だれかに相談できている。	73.0%		
	キャリア教育の充実	⑪自己肯定感の高揚	(教員) なりたい自分を明確にし、それに向けた実践・振り返りを充実させるためキャリアパスポートを年3回、活用している。	71.8%	○年3回キャリアパスポートによる振り返りを実施している。 ●記述後の活用の仕方が分からないという意見があった。 ☆過去のキャリアパスポートを記述時の資料にする等、振り返りの材料として活用していく。 ■集会活動等で異学年交流を行っていることに学校での学びの大切さを感じる。 ☆特別活動や授業の中に異学年交流を位置付け、子供自身が活動の目標を明確にしたり、振り返りを行ったりすることで、異学年交流の質を高め、児童の自己肯定感を高めていく。	
			(児童) 自分に良いところがある。	78.5%		
			(保護者) 学校は、委員会や係活動、学校行事などで子供たちの成長を促している。	92.3%		
	健康の保持増進・体力の向上	体力向上	⑫体育科指導の工夫	(教員) 児童の活動時間が25分以上確保できる体育の授業	84.3%	○体育に関する子供が楽しめる活動の研修会を開くことができた。 ○ルーティンを作り、授業の流れを変えないことで、子供たちが流れを意識できるようになった。 ●子供たちの様子や振り返りからの授業づくりができるようにしたい。 ☆活動の時間を確保できるように、できる限り授業時間内の準備は最小限にする。(事前にラインを引いておいたり、ポイントを打っておいたりする) ☆体力向上に役立つ運動等を準備運動にプラスして取り入れていく。 ■運動能力調査の結果が都平均より低くなっていることが残念である。体力の向上を目指して行ってほしい。 ☆児童の運動への意欲が高まる工夫をしながら、持久走月間、なわとび月間等を実施する。
				(児童) すすんで運動している。(体育や休み時間)	81.0%	
(保護者) 学校は子供たちが日常的に運動に親しみ、すすんで体力の向上をめざす態度や能力を育てている。				80.5%		
健康教育・食育の推進		⑬基本的な生活習慣	(教員) 「早寝・早起き・朝ごはん」の推奨等、健康教育・食育の取組を計画的に行っている。	75.0%	○保健室に来室した子に個別に声かけをすることを続けている。 ○給食指導では、苦手なものでも一口は食べるように指導している。 ●偏食や好き嫌いが多い児童が増えている。 ●牛乳の害や給食の時間が極端に短いという保護者の意見がある。 ☆食に興味をもたせるため、食に関する話題を集会等で全校に発信したり、リクエスト給食を実施したりする。 ☆給食指導は一律ではなく、個別対応を意識して指導する。	
			(児童) 「早寝、早起き、朝ごはん」の生活習慣が身に付いている。	73.5%		
			(保護者) 学校は発達段階に応じて健康教育、食育を行っている。	76.0%		
安全指導の充実		⑭危険を回避しようとする力の育成	(教員) 月1回の安全指導計画に沿った指導に加え、安全指導を月2回以上行い、児童の意識や行動により変化があった。	82.8%	○安全指導関連の動画を視聴して学習する等、工夫して安全指導を進めることができた。 ○保護者等からの情報提供から、迅速にその都度、児童への聞き取りを実施する等、安全指導の継続化に努め、地域への迷惑行為等の防止を行っている。 ●防犯ブザーが鳴らない、持っていない児童がおり、防犯面に不安がある。 ☆持ち物等については引き続き声かけをし、日常生活の中で危険が意識できるよう指導を進める。 ●公園での遊び方や自転車の乗り方について学校全体で定期的に周知してほしいという保護者の意見がある。 ■子供は交通事故を面白がって真似することもある。街中の自転車の速度も速い。交通安全指導については定期的かつタイムリーに指導していく必要がある。 ☆毎月の安全指導等の計画的な指導に加え、日常的な一声指導を取り入れたり、緊急的な学級指導を実施したりと工夫し、児童の危険回避意識を高めていく。	
			(児童) 火事、地震、交通安全、不審者など、危険から身を守るための力が付いたと思う。	87.6%		
			(保護者) 学校は子供たちに危険なことから身を守る力を育てている。	83.4%		
		⑮情報シナジー	(教員) 東京GIGAワークブックを活用した授業、SNS家庭ルール作成・遵守への啓発等、情報モラル教育の取組が計画的に行われている。	70.3%		○情報モラル教室の実施等、計画的に情報モラル教育に取り組んだ。 ●クラスルーム(電子掲示板)への書き込みで悪ふざけをする等、情報モラルに欠ける行動が一定数、出現している。 ☆クラスルームの活用の仕方等の個別ルールの作成・見直しを継続するとともに、児童の実態によって起きる事例等に基づく情報モラル教育の実施・推進を図る。
	(児童) タブレット等、SNS機器のルールやモラルを守り、正しく利用している。		90.7%			
学校・家庭・地域の協力・連携	地域貢献意識の向上	⑯学校・地域の人々・自然と関わる体験活動の充実	(教員) 保護者・地域・外部等の教育資源を活用した体験学習を年6回以上実施した。	76.5%	○各学年で保護者や地域の協力を得た学習を進めることができています。 ●学校・地域の人々・自然と関わる体験活動や課外活動をもっと増やしてほしいという保護者の意見がある。 ☆地域に関わる体験活動の充実を継続して図っていくとともに自分たちが地域の一員であること、地域の方々にお世話になっているという感謝の心を育て、地域への貢献意識を高めていく。 ☆これまでの外部講師との関わりも大切にし、地域の人々や自然と関わる活動の充実を図る。 ●広報の少なさから保護者に活動などが十分に伝えられていない。 ☆取り組んでいる活動については、学年から発信していくようにする。	
			(児童) 自分の住んでいる地域が好きで、地域の役に立ちたい。	85.9%		
			(保護者) 学校は自然や地域とのかかわりを大切にしている教育活動を行っている。	90.0%		
	学校教育への理解	⑰学校からの積極的な教育活動の発信	(教員) 学年や学級の方針や教育内容をお便りや学校のホームページ等を活用して月に3回以上情報を発信した。	64.7%	○ホームページへのアップロードの声かけを教員間で行うことができた。 ○sigfyで学級便りを配信する学級も見られる等、活用の幅が広がった。 ●配信するよう声かけがあったが、月に3回以上ホームページ等で配信することができなかった。(月に1回のアップロードでは少ない) ●行事等の写真は配信できたが日頃の授業の様子があまり配信できていない。 ☆学年だよりがない分、ホームページに行事以外の日頃の学校生活の様子について積極的に配信していく。	
			(保護者) 学校公開や行事、ホームページや通信等を通して学校は教育活動を十分に公開している。	85.0%		
		⑱小中一貫教育への理解	(教員) 小中連携・幼保小連携(児童・生徒・園児の交流)を図っている。	73.5%		○1年生で児童と園児による交流、6年生で中学校授業体験を連携として実施できた。 ●2年生から5年生までは直接、交流をする機会がない。また、教員間での小中連携について活動内容を伝えることが難しく、保護者に十分に伝えられていない。 ☆連携する意義を分かりやすく提示したり、講話、便り、ホームページ等、様々な媒体によって取組や成果を公開したりする。
(保護者) 学校が中学校や幼稚園・保育園と交流していることを知っている。	61.7%					